

## 令和6年 川崎港港湾調査 速報集計結果（概要）

「港湾調査」は統計法に基づく国土交通省所管の基幹統計調査です。ここでは、川崎港に入港した船舶及び川崎港と内外諸港との間で直接扱われた貨物について集計しています。調査期間は令和6年1月から令和6年12月（暦年）です。数値は速報値のため、後日変動する可能性があります。

### 令和6年のポイント

- 入港船舶の隻数、総トン数ともに3年連続減少
- 海上出入貨物の貨物トン数が3年連続減少
- コンテナ取扱個数が4年連続減少

入港船舶 15,459隻（95.3%）／6,834万総トン（85.4%）

※（）内の％は対前年比

外航船 1,918隻（89.2%）／4,767万総トン（81.7%）  
うちフルコンテナ船 405隻（84.9%）／620万総トン（84.8%）  
内航船 13,541隻（96.2%）／2,066万総トン（95.2%）

海上出入貨物 5,504万トン（87.1%）／うちコンテナ貨物 118万トン（93.6%）

外貨貨物 3,105万トン（81.5%）／うちコンテナ貨物 106万トン（96.3%）

輸出 441万トン（84.5%）

ベトナムへの金属くずが増加

中国への化学薬品、インドネシアへのその他の石油が減少

輸入 2,665万トン（81.1%）

韓国、アラブ首長国からの揮発油が増加

オーストラリアからの鉄鉱石、サウジアラビアからの原油が減少

内貨貨物 2,398万トン（95.5%）／うちコンテナ貨物 12万トン（74.8%）

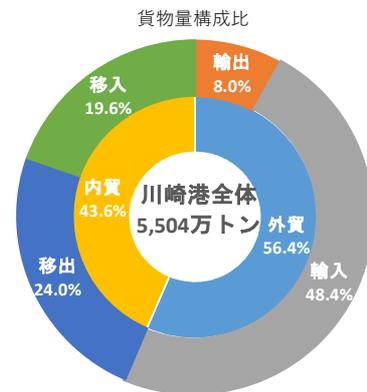
移出 1,321万トン（98.1%）

横須賀への石炭が増加、千葉への揮発油、東京へのその他の石油が減少

移入 1,078万トン（92.6%）

千葉からのその他の石油、砂利・砂が増加

喜入からの原油、須崎からの石灰石が減少



コンテナ取扱個数 102,205TEU\*（96.5%）

\*コンテナの個数を数える単位。20フィートコンテナ1個=1TEU

外貨コンテナ 81,340TEU（94.9%）

輸出 37,150TEU（85.4%）

台湾への完成自動車が増加、インドネシアへの自動車部品が減少

輸入 44,190TEU（104.5%）

中国からのその他日用品が増加

中国からの家具装備品が減少

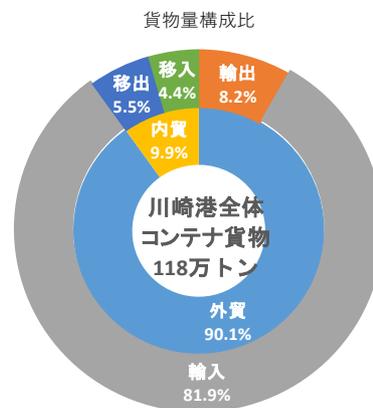
内貨コンテナ 20,865TEU（103.4%）

移出 12,797TEU（127.9%）

横浜への空コンテナが増加、東京への自動車部品が減少

移入 8,068TEU（79.3%）

東京からの製材、大船渡からの空コンテナが減少



※数値の詳細は右記のQRコードから「速報集計結果」を御参照ください。



【問合せ先】

川崎市港湾局港湾振興部誘致振興課 齋藤  
電話 044-200-0350